

虫を見る時の背景、環境が虫嫌いの程度に影響するか

1240543 横川嘉乃

指導教員 三船恒裕

研究背景

虫嫌いとは、虫に対する否定的な認識を指す。虫嫌いは、人が虫を通して病気に感染するリスクや、怪我をするリスクを軽減するためのものとされている。しかし人は無害な虫にまで否定的な認識をする場合がある。人が無害な虫に否定的な認識を示す原因の一つとして、虫を見る場所や環境が挙げられる。虫を見る場所や環境は虫に対する評価を変える可能性があるからである。本研究では何故人が無害な虫にまで否定的な認識をするのかを明らかにするため、虫を見る環境、場所の関係を媒介して検討する。

研究目的

本研究の目的は、何故人が無害な虫にまで否定的な認識をするのか検討することである。調査は虫を見る環境、場所の関係を媒介して行った。環境、場所として屋外自然背景、屋外人工背景、屋内自然背景、屋内人工背景の4条件を使用した。

研究方法

Web上でアンケート調査を行った。屋外自然背景、屋外人工背景、屋内自然背景、屋内人工背景の4種類の背景と虫4種類を組み合わせ作成した計16種類の写真を被験者に提示し、嫌悪、危険の程度を測定した。得られた嫌悪、危険スコアの平均値を条件間で比較し、1要因分散分析、多重比較を行った。そして仮説、虫に対する嫌悪、危険の程度は人工屋内>自然屋内、人工屋外>自然屋外となる、を検討した。自然屋内、人工屋外は同程度になると予測する。

分析結果

人工屋内背景が最も嫌悪、危険の程度を高め、自然屋外背景が最も嫌悪、危険の程度を低めるといふ仮説を支持する結果は、テントウムシ嫌悪スコア、トンボ危険スコア、平均嫌悪スコア、平均危険スコアでのみ得られた。多重比較の結果から嫌悪スコアにおける自然屋外>人工屋外、自然屋外>自然屋内、自然屋外>人工屋内と危険スコアにおける自然屋外>人工屋外、自然屋外>人工屋内、自然屋内>人工屋内のみ5%水準で有意差が見られた。結果、仮説は支持されなかった。

考察・結論

仮説は支持されなかった。写真背景が虫嫌いに与える効果は非常に小さいことが示された。次に本研究の課題を考察する。使用した虫の種類が4種類のみであり同じ虫の写真が繰り返

返し表示されたので、アンケート内容に違和感があった。本研究で使用したアンケートは項目毎に回答方法が異なったので複雑であった。使用した写真は AI により生成されたものであったため、写真の細部やシチュエーションに違和感があった。虫を注視する必要があったこと、大きくズームアップした虫写真を使用したことから、日常生活で虫を見た際よりも被験者が嫌悪する場合があった。